

景観の特性については、評価要因の構成5項目について、多い(1点)、普通(0.5点)、少ない(0点)の評点を25景観分類にそれぞれ与え、最高総点が5点となるようにした。

以上の評価要素から得られた値を加算し、比例配分によって最も高い値を10、低いものを1とし10段階の指数とし景観充実度として表示した。

分類された各景観評価では、山岳景観、海崖景観、多島海景観などの9種類は充実度10となり、本県に広く分布する丘陵地景観、田園景観はそれぞれ6、5と平均的な値となり、都市景観は1となった。これらの評価値は、あくまでもマクロ的に全県を景観評価したものであり、特に都市景観の1については今日の環境行政の大きな課題となっているアメニティの面からみると一概に評価できない面もあり、これらについては今後都市計画上の立場などから評価の検討を行うこととする。

#### 〔自然景観充実度の分布〕

景観評価度をもとに、1平方キロメートル単位に自然景観充実度を算出した。この場合、1平方キロメートル内にいくつかの景観が含まれる場合には、それぞれの主景観の面積に比例配分して自然景観充実度とした。

メッシュにあらわれた自然景観充実度をみると、本県の西部には、極めて高い数値の景観が連続して分布し、東側に向うに従って徐々に下がり、中央低地帯で最低となり、海岸線に近づくにつれて再び上昇する傾向を示している。この比較的高い充実度を示す広い地域は、奥羽山脈に沿って带状に広がる丘陵地で、この中に丘陵地自然湖沼景観、溪谷景観、河川景観が多く含まれ高い充実度を示している。特に、丘陵地にある亜山岳景観を含むメッシュの地帯ではさらに充実度が高くなっている。

また、中央低地帯に位置する広い地域は、田園景観を主体としているが、その中に北上、阿武隈の二大河川を初め、いくつかの河川による平地河川景観が枝状に分布し、また、伊豆沼湖沼群にみられるように、大きな低地湖沼景観もあり、高い充実度を示す地域と、都市または亜都市による充実度が低い地域とが含まれている。

都市化の進行が著しい仙台地区を除いた東側の海岸付近での充実度は、再び高くなるが、これは北部では、北上山地による丘陵地景観と、海洋に接した部分に形成された海崖景観によるもので、特に、後者は狭い带状の範囲ではあるが極めて高い充実度を示している。

県中央部でも松島の多島海景観によって充実度の高い地域が形成されている。南部の海岸部では、狭い範囲ではあるが、砂浜景観、低地湖沼、低湿地、潟湖景観による充実度の高まりが認められる。